地球温暖化への適応は現実に成功してきた

杉山　大志　（すぎやま たいし）一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

本稿は、ブレークスルー研究所　パトリック・ブラウン著
No, Our Adaptation to Global Warming Is Not Largely Fictional　2024年10月10日

https://www.breakthroughjournal.org/p/no-our-adaptation-to-global-warming

を許可を得て邦訳したものである。

9月23日付の『New York Times』紙は、「Our Adaptation to Global Warming Is Largely Fictional」（地球温暖化に対する我々の適応はほとんど虚構である）と題するデイビッド・ウォレス・ウェルズのコラムを掲載し、「Are We Adapting to Climate Change?」（我々は気候変動に適応しているのか）と題する「衝撃的な新しい論文」について取り上げた。その論文は、人間の死亡、農業生産性、犯罪、紛争、経済生産、洪水や熱帯低気圧による被害など、幅広い分野にわたって、気候変動に対する人間の適応を示す証拠は限られていると主張している。

この論文は、「適応の成功物語は極めて過小評価されている」という楽観的な見方に反論しているようだ。

私は、「適応の成功物語は極めて過小評価されている」と考える一人である。そして、これは単なる思い込みではなく、気候変動の影響を受けやすいとされるトレンドを調査した結果に基づいている。例えば、過去数十年間、地球温暖化が進む中にあっても、農作物の収穫量はほぼ例外なく増加しており、その結果、一人当たりに利用できるカロリーが増え、栄養失調や飢饉による死亡率が減少した。安全な飲料水へのアクセスは増加し、マラリアのような気候変動の影響を受けやすい病気の流行は減少した。加えて、寒さと暑さの両方の極端な気温による死亡率が低下し、自然災害による死亡率も低下した。そしてさらに言うと、自然災害による被害額はその国内総生産額に占める割合が急激に減少している。

では、何が起こっているのか？我々は気候変動に適応しているのか、していないのか？この「衝撃的な新しい」論文は、私たちは気候変動に適応していない、と主張しているが、それは誤解を招く表現だと言わざるをえない。

さて、まずは気候変動への適応について、直感的で常識的な定義を述べておこう。

- 適応している：気候は変化しているが、私たちは十分な速さで適応しているため、私たちの状況は長期的に変わらない。

- 適応していない：気候は変化しているが、私たちは適応できていない。従って、時間の経過とともに状況は悪化する。